日中両言語における接尾辞「者（しゃ・もの）」の意味用法について

リ　ウェイテイ
東京学芸大学国語教育専攻日本語教育コース
m091436m@u-gakugei.ac.jp

1.　はじめに

1.1　日本語の語構成

日本語では、「海」「本」「わたし」のような語は、これ以上小さい部分に分けられないものが「単純語」と呼ばれ、実質的な意味を表し、1 つの語基として使われている。また、「飛び出す」「不器用」のようなさらに小さい部分に分けられるものを「合成語」という。「合成語」は、さらに「複合語」「畳語」「派生語」の 3 つに分けられることができる。それぞれ単一で単純語となることができる 2 つの語基からなる「複合語」は、例えば、「山登り」「日本語教育」などである。「畳語」は同じ語基から形成した語であり、例としては「時どき」「人びと」などである。最後の「派生語」は語基と接辞からなる語であり、「専門化」「女っぽい」のような例がある。「複合語」・「畳語」・「派生語」について、さらに詳しく分類することができるが、ここではこれらの言葉の紹介にとどめておと。

「派生語」は語基に接辞が結合してできた語であり、その接辞は「接頭辞」と「接尾辞」の 2 種類がある。接尾辞には、単純に意味を添えるものと、結合対象となる語基の品詞性を変えるものがある（例えば、名詞をつくるものの「重さ」、動詞をつくるものの「ほしがる」など）。接尾辞「者」は前者に属している。

1.2　研究動機と目的

本研究では日中両言語における接尾辞「(しゃ・もの)」についての意味用法考察する。日本語には助詞を伴わない漢語の連続による複合語が多く見られるという特徴がある。黄(2004)によると、接頭辞・接尾辞による造語能力は、他の言語より強いと言われる。また、日本語の接頭辞に比べると、接尾辞はその種類と用例とははるかに多い。今まで、接尾辞あるいは接尾語に関する研究は、これまで主に国語教育に重点を置かれたが、日本語学習者も、それを学習する必要があると思われる。しかし、現在の日本語教育では、それに関する先行研究はそれほど多くないと思われる。

一般的には、中国語学習者は日本語の漢字を学習する際に、学習しやすいと思われているが、

実に違う。河住（2005）の論文の中で、中国人学習者による漢字使用の誤用分析が行われた。その結果は、「家・員・者」の使い分けの誤用が多く見られたということである。それで、このような人物接尾辞について、さらに研究する必要があると考えられる。また「者（もの)」という読み方は概ね古いイメージがあり、現在の若い世代ではどのように使うか、あるいはどのように理解するかについての変化を明らかにしたい。また、語彙調査の材料は、新聞記事と今の若者向けの雑誌とし、その中での使用状況と新出語彙を調べる。その調査結果で、「者」がどのように変化してきたかが見えてくるのではないかと期待できる。最後に、日本人と日本語を学習している中国語母語話者に世代ごとの意識調査を行いたいと思う。

2　先行研究の調査と問題点

1）日本語研究

杉村（1988）は、「－者」「－家」を五つの部分に分け、「－者（しゃ・もの）」と「－家（か・や）」のそれぞれの読み方について、分析した。

「者」は、単にある行為や現象の主体者を表すという使い方だけで、大量に造られると言えると指摘した。例えば、受験者・合格者・入学者・欠席者などの表現がある。この意味以外の「－者（しゃ）」は、非生産的である。通常、反義語や類義語のペアーを形成しにくいと言われている。特に、「一字漢語＋者」という形で現れるものはそれである。例えば、他者（＊自者）・武者（＊文者）・話者（＊聴者）などである。

「～ヲ有スル者」（技術者・初心者・権力者など）や「～二在ル者」（部外者・聖職者・高段者など）や「～デアル者」（独身者・異常者・第三者など）などのような表現は、「～スル人・ナル人」と比べ、比較的に生産力が弱い。

「逮捕者」のような例外表現がある。ここでは動作の主体者を表すことではなく受動者を指す。これに似た用例は、「解雇者・採用者・雇用者」などである。

「犯罪者・共犯者・被害者」などの場合は、「名詞＋者（しゃ）」と考えるより、「罪ヲ犯ス者・共二犯ス者・害セラル者」と考えたほうがよい。そう解釈しないと、「被害者」は「名詞＋者（しゃ）」、「加害者」は「付属形式＋者（しゃ）」として扱われるかもしれない。これは漢語のシンタクスで考えた方がよいと指摘された。

文法上「－家（か）」が名詞によく付くのに対し、「－者（しゃ）」は付きにくいという点で、両者には大きな違いがある。例えば、小説家（＊小説者）・漫画家（＊漫画者）・実業家（＊実業者）などである。この点については、古代漢語でも現代漢語でも「名詞＋者（しゃ）」という文法手が用いられていないため、「王者・帝者・儒者・冠者」などの語彙はすでに古代

リ　ウェイテイ

漢語の範疇に属するものであるが、現代漢語においては、「名詞＋者（しゃ）」はわずかに「筆者・～論者・～主義者」しか使われない。

「者」と「家」は、読み方の違いによって、大いに意味が違ってくる。また、杉村は次のように指摘した。「－者（もの）・－家（や）」という読み方は、大抵マイナスの意味を表す場合が多い。ばか者・なまけ者・やっかい者・お調子者など多くの例が挙げられている。その中、「鼻つまみ者・なぶり者・笑い者」などは、形式能動、意味受動で「～サレル者」の場合と「きらわれる者」の場合は、形式上も意味上も受動で「～ノ～者ニナル」という形でよく使われる。

2）中国語研究

張（1981）では、中国語の接頭辞と接尾辞について分析をなされている。また、接頭辞と接尾辞は口語と文語に分けられている。その中、「－者　－家」は、口語に分類され、「専門の技術、学問または専らひとつの業務に従事している人を示す」とされている。

→しかし、それ以上の分析はなされていないため、さらなる詳しい調査が必要である。

3）日中対照研究

林（2005）は、日中翻訳の立場から‘-家、-師、-者、-員、-人’の５つの語の意味と構成についてある程度詳しく調べ、分析結果から日中対訳の諸問題を提案した。その研究材料としては、岩波出版の『逆引き広辞苑』と台湾教育部が出版した『国語辞典』がある。

「-者」は、「最も生産力がある接尾辞だ」としており、漢語では、「-人」と置き換えることができる。口語的な「-人」に比べ、「-者」のほうが文語的だと指摘されている。日本語の場合は、（しゃ）と（もの）の２つの読み方があり、意味上もより複雑である。日中対訳だけではなく、日本語教育でも応用できるではないかと考えられる。なお、林の論点は、前述の杉村の論点とほぼ同様のため、ここでは省略しておく。

→しかし、その研究材料は岩波出版の『逆引き広辞苑』と台湾教育部が、出版した『国語辞典』しかないため、「者」についての使用実態はさらなる詳しい調査が必要であると思われる。

3　青空文庫の分析結果

今回の語彙調査は、1990 年分と 2009 年分を材料として調べた。1990 年の小説の総数は、373 冊がある。373 冊の中で 39 冊の作品には「者」の用例がなかった。2009 年の小説の総数は 641 冊であるが、その中の 260 冊のみを分析した。260 冊の中で「者」が現れていない作品は 40 冊ある。

1990 年の分析結果の中で、接尾辞の「しゃ」（例えば、研究者・作者など）の出現頻度は 1870 回があり、単語としての「もの」は、645 回があった。2009 年の分析結果では、接尾辞の「しゃ」の出現頻度は 2083 回あり、単語としての「もの」は 1092 回あった。1990 年では、接尾

辞の「しゃ」と単語としての「もの」の割合は、約 3 分の 1 を占めているが、2009 年では、両者の割合は約 2 分の 1 になった。考えられる理由は、硬いイメージのある漢字接尾辞より、口語の方がより使われるようになったと思われる。調査対象としての接尾辞の「しゃ」は、意味・ジャンルによって 29 種類に分けた。出現頻度の高い順には、下記の通りである。「役割・職業・態度/性格・行為・状態・才能・賢愚・善悪・障害・仲間/仲間外れ・生死・地位・勝負・老若・神仏・指示詞/単複・趣味・親族・地域・真偽・姿態・意向/願望・賛否・思考・限度・強弱」というふうになっている。

青空文庫の調査結果からわかったことは、

1）1990 年分の中で、「片輪者」のような単語は、非常に軽蔑な感じが含まれているので、現在では使われなくなる傾向がある。また「ハイカラ者」は、明治・大正時代の古いイメージがあり、2009 年分の語彙調査ではすでに使われていない。

2）日中対照からみると、日本語の「紹介者」という言葉は中国語では、「介紹者」と表記されている。「説話者」は中国語では「説話」は動詞として使われ、意味も日本語とは違い、ただ「話をしている人」を表すだけである。日本語の「長者」は、お金持ちや地位の高い人を指すが、中国語では単にお年寄りの方を指す。また、「死亡者」「亡者」「死者」の 3 つの言葉は、日中両言語でも同じ使用頻度（死者＞亡者＞死亡者）だが、現在の日本語の「亡者」の意味は、死亡した人を表すより執念に取り付かれている人を表す方がよく使われる。中国語では本来の意味で使われる。

参考文献と参考資料

張 忠国（1981)「中国語における接尾辞と接頭辞の一考察」『東海大学紀要外国語教育センター』2, pp.65-71

杉村博文　(1986)「－者　－家」『日本語学』5-3　明治書院

森山卓郎　(1986)「接辞と構文」『日本語学』5-3　明治書院

黄其正　(2004)『現代日本語の接尾辞研究』　溪水社

林郁芯　(2005)「屬人名詞準後綴‘-家、-師、-者、-員、-人’的日漢對譯分析」　輔仁大學翻譯學研究所修士論文

河住有希子　(2005)「中国語学習者の漢字語彙使用に見られる問題点」　『早稲田大学日本語教育研究』7 号　早稲田大学大学院日本語教育研究科

「青空文庫」　http://www.aozora.gr.jp/index.html

「中央研究院現代漢語平衡語料庫」　http://ckip.iis.sinica.edu.tw/new/onlinesystem.htm